

令和7年度 第1回刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和7年7月28日（月）午後3時00分～4時50分

2. 場所

市役所101会議室

3. 出席者

会長及び委員20名

事務局15名

4. 議題

(1) 刈谷市こども計画について

事務局から資料2について説明した。

(質疑)

- ・会長 4つの基本目標について、基本目標1は「こども・若者の権利の尊重」で新しい視点だと思う。そこから始まり、基本目標2は「こども・若者が健全に育つ環境の整備」でどちらかというと大人とか保護者からの立場だと思う。次に、基本目標3は「安心して子育てできる環境の整備」でこども・若者にとって一番身近なことだと思う。基本目標4は「社会全体での子育ての推進」となっている。この順番について委員より何か意見があったか。

- ・事務局 「こども・若者の権利の尊重」を一番目としたのは会長のおっしゃるとおり。そこから始まり、こどもに近いところから並べている。昨年の子ども・子育て会議で委員より意見はなかったが、こどもから始まり、周辺環境・企業・社会という広がりを持った順番とし、委員の承認を得た。

(2) 第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画「量の見込みと確保の内容」について

事務局から資料3及び参考資料について説明した。

(質疑)

- ・会長 3ページの0歳、1・2歳、3歳以上、と比べると特に0歳が不足しているように思う。待機している方の困り感はどうか。直接的な背景は説明

があったが、長期的にこの年齢で預けたい人は増え続けていくのか。

- ・事務局 刈谷市は保育需要が0～2歳は高い傾向にある。0歳児について、令和4年度から令和6年度にかけて160人増えた。それに伴い、量の見込みの目標値と実績値で乖離がある。229人全てが待機児童ではなく、国の定義によると令和7年4月1日時点は1歳児は13人、0、2歳児は0人である。希望の園に入れない方がどういった弊害があるかというのと、0、1歳の方は育休を延長せざるを得ないという状況になる。昨年度までの子ども・子育て支援事業計画では3歳以上は減少、0、1、2歳は横ばいの見込をしていたが、今年度からのこども計画では児童の数は減っても引き続き0～2歳は増える見込みをしている。来年度から新しい乳児園を新設し、数年後には新たな保育所の誘致を検討している。保育需要の高まりをおさえていきたい。
- ・委員 数は充足していることが分かった。サービスと品質について、質の高い保育がなされているかどうか。それを提供するために意識していることはあるか。
- ・事務局 幼児園の質の担保について、よりよい保育の質の向上について私立は国のいろいろな制度があり、保育士以外でも給食の配膳、登園の時間などちょっとした大変な時間帯をサポートもらえるような保育補助員を配置することにより、保育士の資格を持つ職員が子どもと接することができる状況が担保されている。また、今年から配置基準が変わり子どもたちにとって、保育士が少しの人数で見れるようになった。刈谷市で一番特徴的であるのが、公立保育園と私立保育園の園長会を催している。刈谷市で子どもたちがみんな同じように保育を受けられるように、ヒヤリとした事例などがあれば情報共有して安全に保育できるようにしている。研修も公立、私立問わず合同で受けるものもある。保育士の質を高めあえるような研修にしている。
- ・委員 先ほど担当課よりそれぞれ説明があったが、刈谷市役所のなかで課をこえた連携などはされているか。
- ・事務局 多々おこなわれている。一例を挙げると、子ども・子育て会議の下部に位置づけられる庁内の部会もそうで、こども計画を策定するにあたり各課の代表と様々な意見交換をした。その他、最近ヤングケアラーという言葉

を耳にすることが多いと思うが、関係する長寿課、福祉総務課と意見交換をして今後のヤングケアラーに対する対策、方針を検討している。事務の面でも各課の担当者同士、協力して行っているが、方針を決める代表的な2つを紹介した。

・委員 刈谷市こども計画において必要な視点1として「ライフステージに応じた切れ目のない支援」が挙げられているため、各担当課が専門性を発揮しつつ、何よりもこどもの視点に立って人生を切れ目なく支えられるようになってほしい。

・会長 各課でいろんな事業があるかと思うが、それぞれの役割分担について、新しい委員や若者委員に教えてほしい。

・事務局 子育て推進課につきましては、児童福祉に関すること。例えば児童手当の支給、放課後児童クラブ、ヤングケアラーについて中心になって考えていくこと、子育てをしている保護者の方へのアプローチ、今回新たにこどもの権利の尊重もこども計画に盛り込んでいるため、これについても中心になって考えていきたい。

子育て支援課につきましては、主なものは母子保健を担当している。4か月検診、1歳6か月検診、予防接種、就園前の母子保健に力を入れている。

子ども課につきましては、保育園、幼保連携型認定こども園及び認可外保育園の補助を行っている。先ほど委員から質問があったが、保育園や幼児園の5歳児が放課後クラブを保護者もお子さんも利用していくため、お子さんが放課後児童クラブを利用する時には、共有したり、逆に放課後児童クラブから保育園や幼児園の時はどうだったかとお尋ね等も個人情報には気を付けてお話したりして、利用されるお子さんや保護者が困らないように連携している。

これまで次世代育成部のなかの3課について説明をした。次世代の育成を全て3課でやれるわけではないため、例えば教育のことは教育部、最近だとワクチンについては福祉健康部と必要に応じて連携して行っている。

・会長 先ほど委員がおっしゃるとおり、各課が専門性を生かしながら、必要に応じて連携していくことがこども計画の実現にあたって大事だと思う。

- ・委員 保育の見込みについて、保育の質や担保について説明があったと思うが、保育需要の高まりに伴った、保育士の給与待遇だとか刈谷市で努力していることなどあるか。
- ・事務局 保育士の給与待遇について、刈谷市では行政職と同様の給与が設置されていて、保育士だけの給与というものはない。市の職員と同等と考えている。また、私立保育所においても、市の職員の同等という考え方を基に、世間で言われているような給与が低いということがおきないようにしている。
- ・委員 今後の展望で保育園の乳児園化及び新設という話があったが、保育の質がおちないような配慮はあるか。
- ・事務局 さらに乳児園化とは私立のことの説明だったと思うが、それについては保育士資格のある職員が待機児童の人数を満たす職員を配置予定である。公立保育所を2園乳児園に移行しているが、それについても保育士資格のある職員を配置する。そのうえで、先ほど説明したが、保育の質を担保するため子どもにしっかり対面し保育に専念できるように、それ以外のトイレの掃除や食事の配膳や大変な部分を補助員の方に手伝ってもらい、保育士資格のある職員が子どもと向き合える環境が用意できている。

(3) 刈谷市こども計画の進捗管理及び評価方法について

事務局から資料4から6について説明した。

(質疑)

- ・委員 予算のある事業は事務事業評価を二次元コードから参照できて、予算のない事業は事務事業評価が作成されず、別途作成するという話だったと思う。それについては、会議の前に紙での提供となるということによいか。
- ・事務局 おっしゃるとおり。会議後にはホームページで公開するが、事務事業評価シートとしては作成しないため、紙媒体で会議資料として配付する予定。
- ・委員 業務の合理化の為に事務事業評価シートと一緒にするというのは、今後の為に進めていくべき事項だと思うが、第1回の会議が10月に開催されると説明があった。10月というと後期に差し迫っていく状況になるかと思う。それ以前に情報に得る手段は検討しているか。

- ・事務局 10月以降の開催となることは説明したとおり。それ以前の把握の仕方に関して、今まで独自シートを作成しており、どうしても決算よりも前に今まで事業報告していたこともある。それが妥当かどうかも含めて報告自体は遅くなるが市全体の事務の整合性をとるため、開催については遅らせた
たい。
- ・委 員 来年度以降の計画の進捗状況の子ども・子育て会議の評価が「このまま
進めてほしい」、「一部努力が必要である」、「かなり努力が必要である」の
3段階での評価の最終的な結果に関して、会長が採決するのか、決定の方
法について具体的に教えてほしい。
- ・事務局 資料1の第6条第4項に議事の決定方法について記載があり、「子育て
会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決す
るところによる。」とある。本来は満場一致が望ましいが、意見の分かれ
る場合は多数決により決定する。
- ・会 長 会議の時期については、前年度の実績がまとまってから開催される。進
行中の事業について、意識していただけるようにアピールすると思
う。
第2期子ども・子育て支援事業計画ではかなり多くの事業を基本目標ご
とに整理していた。こども計画では、基本目標が4つあって、重複する事
業もあると思う。基本目標ごとにどの事業が対応していくのか見通しがつ
いているのか。
- ・事務局 昨年度こども計画の策定の際において、それぞれの施策がどの基本目標
にあてはまるかどうか事務局では想定をしている。重複する事業があるの
もご指摘のとおりで、それについては再掲と示していく予定。
- ・会 長 刈谷市在住、在勤、在学のみなさま含めてこども政策を効果的に推進す
る観点で注目して、来年度以降有意義な議論をしてもらいたい。せっかく
なので、いろいろな事業があるなかで関心がある分野について委員より聞
かせてほしい。
- ・委 員 友人で刈谷市の保育士や私立の保育所の保育士を目指している方がい
る。
働き方だったり、自分の将来が分かりにくくなったりするという話を就

職活動の中で聞くことがある。保育士も子育てをする保護者に向けてアプローチしていけるといいと思った。

- ・委員 興味があるところが、基本目標1の「こども・若者の権利の尊重」。こどもが主体となっていて、行政側がいいと思っている制度でももしかしたら、こどもにとってはあまり意味がないんじゃないかと思ってる制度もあるかもしれない。こどもの意見をしっかり聴けるような制度を作ってほしいと思った。
- ・委員 追加で聞きたい。こども計画の58ページに「(5)多様化・複雑化する保護者のニーズ」の欄に「習い事が減少し、自宅や放課後児童クラブが高まりをみせています」と記載がある。34ページと35ページを見ると確かに需要は増えていると思う。これが本当に、利用したいのか、選択がこれしかないのか、習い事の月謝が高くなったことを背景にして、このように変わってきたのかどうか、分かれば教えてほしい。
- ・事務局 指摘の箇所について、子育て世帯の保護者にアンケートをとった。前回調査から今回調査にあたりコロナ渦を経ている。コロナ渦の影響をうけての変異はあるかと思う。何が要因で結果の変動に結び付いたかどうか客観的なものはない。
- ・委員 前回の子ども・子育て支援事業計画では参考資料にあるとおり1つ1つの目標について利用者数や実績値をまとめていたものを、今回のこども計画では61ページにあるとおり全体で4つのKPIに変更されている。基本目標に関して、どのような取り組みをしていくか具体的に記載してある。例えば、KPIの1つ目の「将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合」の目標値に関しては、63ページにあるようにこどもが社会のことを考えられるように支援するという施策に結び付いているのかと思う。1つ1つの施策をKPIと結びつけてはいないと先ほど説明があった。そうしたときに、2つ目の「学校が楽しいと思う児童生徒の割合」を増やすときに学校だけが頑張ってもダメなので、こども計画のなかに反映されていると理解した。教育はすぐに目標の数値に結び付かないと思う。例えば、1つ目のKPIの数値は今でも非常に高いと思う。将来の目標をもっているとよい行動にもつながると思う。私のこどもがちょうど中学生のため、将来の夢とかあるか聞いたところ、ないと言われた。ただ、中学校生活が心配かということとそんなことはなくて、今は視野を広げていけばいいと思うから

頑張って勉強するという考え方もある。2つ目のK P I も非常に高い割合だが、学校でアンケートをとっていたら、学校に通える子が答えるため高い数値になると思う。数値目標だけにとらわれず、背景の目標に向かって活動してもらえたらと思う。

- ・事務局 K P I については、上位計画である総合計画を引用して掲載している。こども計画を推進することによって総合計画の推進につながると思う。総合計画の推進には、関係各課の事業推進が影響してくる。具体的にいうと、4つ目のK P I の「地域活動やボランティア活動が活発であると思う市民の割合」はこども計画の基本目標4の「社会全体での子育ての推進」が推進されていけば、のびていく指標だと思う。一方で総合計画の指標についてはこどもだけではないため、大人のボランティア活動も活発になると目標値に達していくと思う。こども計画だけのK P I にしなかったのが今回の特徴の1つである。委員のおっしゃるとおり2つ目のK P I は学校に通えていない子も含めたら違う数値になると思う。行政として、課題感をもっていく必要がある。

- ・会長 こどものニーズは多角的にとらえる必要があり、放課後児童クラブの需要が高まっているのは、習い事の月謝があがっているとか、ここに来ているけど本当は違うところを利用したいんじゃないのか考える必要がある。達成度も数値があがればいいというわけではなく、目標に向かって活動していく必要があると改めて感じた。

(4) その他について

事務局からその他資料について説明した。

(質疑なし)